

| | | | | | |
|----------|---|----|------|----|-----|
| 氏名 | 森 美紀 | 部署 | 看護学科 | 職名 | 准教授 |
| 研究分野 | 母性看護学、助産学 | | | | |
| 学位 | 修士（看護学） | | | | |
| 学歴 | 1992年3月埼玉大学教養学部教養学科、2003年3月千葉大学看護学部看護学科、 2009年3月千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程 | | | | |
| 経歴 | 2010年4月～2014年3月埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助教、2017年4月～2019年3月同左（育休代替）、 2019年4月～2022年3月武蔵野大学看護学部看護学科准教授、 2022年4月～埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科准教授 | | | | |
| 所属学会（役職） | 日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本生殖看護学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会 | | | | |

【2022年度実績】

| | | | | | | |
|--------------|----------------------------|-------|------|---|---|-----------------|
| 1. 研究業績 | | | | | | |
| (1) 著作 | | | | | | |
| | 著作の名称 | 単・共 | ISBN | 発行所、全ページ数 | 著者、編者名 | 発行等年月 |
| 1 | みえる生命誕生 受胎・妊娠・出産 改訂新版 | 共著 | あり | 南江堂 P255 | 監訳：鮫島浩、大月恵理子 翻訳（共）担当部分：P72-73.124- 125.154-155計6ページ | 2022年9月1日 |
| (2) 論文 | | | | | | |
| | 論文の名称 | 単・共 | 査読 | IF対象誌 | 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ | 著者、編者名 |
| 1 | 該当なし | | | | | |
| (3) 学会発表 | | | | | | |
| | 学会発表の演題 | 単・共 | | 学会名、開催都市 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 |
| 1 | 高齢不妊カップルの不妊治療に関する意思決定の体験 | 共同 | | 第20回日本生殖看護学会学術集会（オンライン） | ○森美紀、坂上明子、青木恭子、大月恵理子、青柳優子、林ひろみ、林はるみ | 2022年9月4日 |
| 2 | 妊産婦急変時の多職種連携における看護職者の体験 | 共同 | | 第63回日本母性衛生学会学術集会（神戸市/オンライン） | ○樋口えりか、坂上明子、森美紀 | 2022年9月9日 |
| (4) その他 | | | | | | |
| | 名称 | 単・共 | | 発表場所等 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 |
| 1 | 該当なし | | | | | |
| 2. 競争的資金等の研究 | | | | | | |
| | 競争的資金等の名称 | | | 研究名 | 研究代表者・研究分担者の別 | 研究期間 |
| 1 | 文部科学省 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤C） | | | 高齢不妊カップルのための初診から治療終結に至る意思決定支援ガイドの作成 | 研究分担者 | 2019年4月～2024年3月 |
| 2 | 文部科学省 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤C） | | | 高齢不妊カップルのための不妊治療に関する意思決定支援ガイドの実装研究 | 研究分担者 | 2022年4月～2025年3月 |
| 3. 教育業績 | | | | | | |
| (1) 講義 | | | | | | |
| | 講義の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） | | |
| 1 | 周産期のケア | ○ | 2 | 助産系の必修科目であり、演習科目である。その中の健康教育に関する講義、母子保健を中心とした地区把握に関する講義を担当した。講義では、これまでの実務経験をもとに、より具体的な例を紹介するなど工夫した。 | | |
| 2 | 母性看護学Ⅱ | | 4 | 妊娠期の講義を4コマ担当した。既習の知識を確認しながら、看護支援について例示し、学生が具体的に考えられるよう促した。 | | |

| (2) 演習 | | | | |
|----------|----------------|------------------|--|--|
| | 演習の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要 (教育内容・方法等において工夫した点) |
| 1 | 分娩期のケア | | 14 | 産痛緩和では主担当として、助産過程ではGW前半の担当として、分娩介助技術演習、技術試験の担当をした。助産学生として、対象者に寄り添い、思いやる気持ちを大事にできることの重要性を伝えることに留意して関わった。 |
| 2 | 母性看護学Ⅱ | | 8 | 新生児のバイタルサイン測定、退行性変化の観察の演習において、実際をイメージしやすいよう模型を使用して演習を実施した。観察技術のみならず、対象者を総合的に捉え、アセスメントすることの重要性を伝えた。 |
| 3 | 周産期のケア | ○ | 17 | 助産師外来演習については副担当として、学生が妊婦を総合的にアセスメントし、支援につなげられるような視点に気づけるような関わりを意識した。模擬集団健康教育のGW及び発表会については科目責任者としての統括を行い、円滑な学習につながるよう努めた。各演習 (沐浴・CTG、母乳育児) が円滑に進行するよう補助的に関わった。 |
| (3) 実習 | | | | |
| | 実習の名称 | 科目責任者 | 学外実習：期間 学内実習：コマ数 | 概要 (教育内容・方法等において工夫した点) |
| 1 | 助産学実習Ⅰ | ○ | 2022年5月～6月 | 保健センターにおいて、地域で暮らす母子だけでなくその家族にも目を向けて支援を考えられるよう、また、地域と病院との連携の必要性に気づけるような関わりを重視した。科目責任者として、実習が円滑に進むよう、4施設と調整した。また、4施設すべてのカンファレンスに参加し、学生の学びの意味づけを支援した。学内カンファレンスを半分 (2G/4G) 担当し、学びの共有を支援した。 |
| 2 | 助産学実習Ⅱ | | 2022年6月～9月 | 学内代替実習および産科病棟での実習を1施設担当した。助産師学生としての倫理観と責任感を意識でき、学べるよう関わった。また、思考の整理や技術の獲得について支援した。 |
| 3 | 母性看護学実習 | | 2022年5月～6月 | コロナ禍における実習中止に伴う2施設の学内実習および病棟での実習を担当した。学内実習では、可能な限り臨床に近い経験が得られるよう、模擬褥婦 (教員) や模擬電子カルテを用いた。病棟実習では、学生自身が母子の健康状態だけでなく、愛着形成の視点も大切にしたい関わりができるよう支援した。 |
| 4 | 総合実習 (母性看護学領域) | | 2022年7月 | 病棟・外来実習を担当した。臨地実習が半日であったことから、遠隔でのカンファレンスを組み合わせ、限られた実習時間の実習であっても母子の地域での生活まで見据えた支援を考えられるよう、最大限の学びとなるよう、支援した。 |
| 5 | IPW実習 | | 2022年10月 | 遠隔での実習にて1施設1Gをファシリテーターとして担当した。学生個々の専門性に目を向けつつも、相手を尊重して関わることの重要性に気づけるような関わりを意識し、活発な討議を支援した。 |
| (4) 論文指導 | | | | |
| | 対象 | 期間 | 主指導・副指導の別及び指導人数 | |
| 1 | 卒業論文 | 2022年4月～2022年12月 | 主指導 | 1名 副指導 0名 |
| (5) その他 | | | | |
| | 名称 | 期間 | 概要 (教育内容・方法等において工夫した点) | |
| 1 | 模擬産婦養成プログラム | 2022年7月 | 助産学教育に活用する、模擬産婦養成プログラムを企画・運営した。模擬産婦とは、分娩期の看護・分娩介助演習などで、協力していただく産婦役で、リアルな産婦を事例に沿って演じてもらうものである。これまでの研究成果も活用し、学生への効果的なフィードバックの方法や事例の演じ方の検討など、具体的に示しながら、講義・演習を行った。 | |

| 4. 社会貢献活動 | | | | |
|---------------------------|------------------|--------------|---|-----------------|
| (1) 講演会、研修会、公開講座等の講師 | | | | |
| | 講演会、研修会、公開講座等の名称 | 主催 | 講演、研修、公開講座等のテーマ | 開催年月 |
| 1 | ベビーマッサージ講師 | 越谷市児童館ヒマワリ | 生後3か月～8か月児のベビーマッサージ教室 | 2023年3月 |
| 2 | オープンカレッジ | | 産科スタッフのための「やさしい日本語研修」 | 2023年2月 |
| (2) 国、自治体、学術団体等における委員等 | | | | |
| | 国、自治体、学術団体等の名称 | 委員等の名称 | 任期 | |
| 1 | 日本母性看護学会 | 学術支援委員 | 2021年4月～現在 | |
| 2 | 日本母性看護学会 | 選挙管理運営部会委員 | 2020年10月～現在 | |
| (3) ジャーナリズムでの発言 | | | | |
| | メディア等の名称 | 内容 | 年月 | |
| 1 | 該当なし | | | |
| (4) その他 | | | | |
| | 項目 | 相手方等 | 内容 | 期間 |
| 1 | 地域貢献活動 | 春日部市立医療センター | 病院からの依頼により、産科病棟・NICU病棟の看護職の方と事例検討会を実施した。事例の振り返りのために文献や研究結果などをもとに助言した（5回/年）。 | 2022年4月～2023年3月 |
| 5. 学内運営 | | | | |
| | 項目 | 内容 | 期間 | |
| 1 | 全学的委員会及びセンター業務等 | 看護学科入試実施部会委員 | 2022年4月～現在 | |
| 2 | 学科等における委員会等 | 就職支援プロジェクト | 2022年4月～現在 | |
| 3 | 大学広報活動 | 高校訪問（1回） | 2022年4月～現在 | |
| 4 | 学生支援 | 1年生担任 | 2022年4月～現在 | |
| 6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの） | | | | |
| | 受賞名 | 主催 | 受賞年月 | |
| 1 | 該当なし | | | |
| 7. 特許の取得 | | | | |
| | 特許名 | 特許番号 | 登録年月 | |
| 1 | 該当なし | | | |
| 8. 特記事項 | | | | |
| 1 | 該当なし | | | |